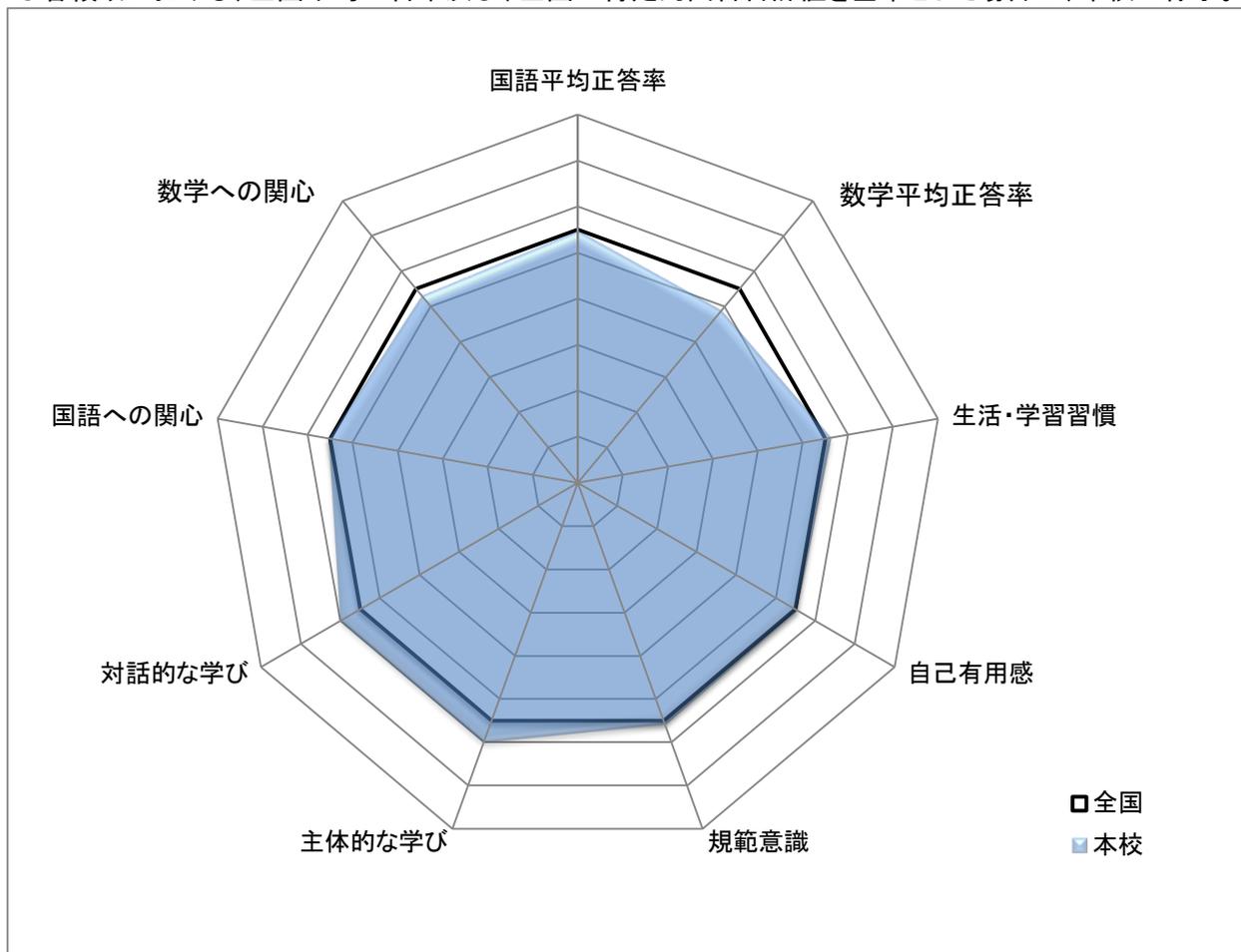


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語・数学ともに全国平均正答率には達せず、国語は-0.6、数学は-7.2ポイントという結果であった。

国語  
 ①記述の問題の無回答率が高かった。記述の仕方が理解できていない生徒が多いためである。②敬語の問題が全国平均より-9ポイントであった。授業での扱いが少なかったためであり、反復練習が必要と考える。

数学  
 ①基本的な問題の正答率が低い。反復練習が不足しているためだと考える。②記述の問題の無回答率が高かった。考えの根拠を書いたり、説明したりする機会が不足している。

《今後の指導で改善していくこと》

国語  
 ①作文等、自由記述ができるものは苦手意識がなく取り組んでいるので、記述式問題を解答するポイントを教えていく。教科書の単元終了後、200字程度の記述問題を解かせる。②漢字の読み書きや語句の意味については、小テストや辞書を使った学習だけでは十分でないため、家庭学習の課題等を工夫していく。③定期考査では授業で指導した記述の方法を生かして解答する問題を出題する。

数学  
 ①基礎基本の丁寧な指導をより一層心がける。グループでの学び合いで、生徒相互で考え方や解き方を説明していく場面を増やす。②自らの解き方の根拠を書く時間を確保する。③説明をするためのキーワードを事前に提示して、苦手意識のある生徒にも根拠を書きやすいようにしていく。④定期考査では学力調査の問題を参考にし、記述問題を多く出題する。

《チャートの特徴》

①全国平均を大きく上回るもの(全国を1、本校が1.1以上)・・・主体的な学び、対話的な学び(グループ学習や応用・発展課題の提示を中心とした学び合いや、総合的な学習・読書科の探究学習が定着していることが分かる。)

②全国平均とほぼ同等、または少し上回るもの(全国を1、本校が1.01~1.03)・・・自己有用感、規範意識、(生徒主体の行事・委員会活動や道徳授業の工夫を継続しているためと考える。)

③全国平均を下回るもの(全国を1、本校が1未満)・・・数学への関心(授業・課題・テスト等すべての面でより一層の工夫が必要と考える。)

《家庭・地域への働きかけ》

スマートフォン、ゲームの時間が家庭学習時間を大きく上回っていることが、学習状況調査や生徒アンケートから明らかになっている。スマートフォンやゲームについて一定のルールを決める、使用時間を制限する等の家庭へのご協力をお願いし、家庭学習時間を増やす。